

平成29事務年度
地域銀行モニタリング結果とりまとめ

主なポイント



平成30年7月

金融庁

地域銀行モニタリングの概要

モニタリングの背景

- 地域銀行では、低金利環境の継続や人口減少、高齢化の進展等、環境変化や構造的な変化への対応が喫緊の課題
- 地域に対する金融仲介機能を継続的に発揮し、金融システムの安定性に資する持続可能なビジネスモデルを構築することが必要

金融庁の対応

- ビジネスモデルの持続可能性やそれを支えるガバナンス等に課題を抱える地域銀行に対し、検査も活用しながらモニタリングを実施
- モニタリングで明らかとなった課題と合わせて、金融庁の問題意識を公表
- モニタリングを実施した先はもとより、それ以外の地域銀行においても、本とりまとめを参考に経営状況を点検し、同様の課題を抱える場合には、バランスシートに大きな問題が生じていない今、直ちに改善に取り組むことが必要
- その際、指摘した課題をチェックリストとして機械的に点検・改善を図っていくのではなく、ガバナンス、内部管理態勢、リスク管理態勢が全体として実効的に機能しているか、という視点が重要

経営戦略・計画とリスクテイク

- 目先の収益確保を優先し、経営理念に基づいた実現可能性のある経営計画・収益計画を策定・実行していない
 - ✓ 貸出先増加目標の達成率が長期に亘り1割未満、業績目標を達成した営業店が長年に亘り皆無
 - ✓ 目先の期間収益確保のため地元地公体向け貸出債権を売却、将来の利息収入を喪失
 - ✓ 中長期的な採算性を度外視した「お願い営業」「キャンペーン営業」の繰り返しでボリューム拡大
- 計画に掲げた当期純利益・配当額・配当性向を維持するために、経営体力やリスクコントロール能力に照らして過大と思われるリスクテイクを行っている

経営計画・収益計画の策定と着実に実行できる態勢

- 構造的な収益の悪化にもかかわらず、抜本的な経営効率化に取り組んでいない
 - ✓ 県内営業店が軒並み赤字にもかかわらず、店舗統廃合等の抜本的な経営効率化策を検討せず
- 収益の柱である商品・サービスの特性やリスクを理解せず、必要な収益管理も行っていない
 - ✓ 新商品を従来商品の延長と誤認、それが内包するリスクを一切評価しないまま取り扱いを開始
 - ✓ 商品別管理不備から、経営陣は一部営業店での特定商品の販売急拡大を適時に把握できず

ガバナンスの発揮

- 取締役会が形骸化し、経営課題に関する実質的な議論を行っておらず、社外取締役の客観的な視点や知見も活用していない
 - ✓ 取締役会付議が役員選解任・法定決議事項・規程改訂にとどまり、経営に関する報告・議論なし
 - ✓ 執行側が社外取締役に議案の背景・要点、経営会議での議論内容等、必要な情報を提供せず
- 内部監査が事務不備の検証等にとどまり、経営への規律付けの役割を果たしていない
 - ✓ 内部監査項目の決定にあたり、経営方針や経営環境の変化を踏まえていない
 - ✓ 他と比較して突出した業績を上げている営業店に対して監査を実施していない

➤ 地域銀行が将来に亘って健全性を維持し、地域経済に対して金融仲介機能を継続的に発揮していくため、以下の問題意識に基づき、チェックリストの個別項目を形式的に満たしているか否かではなく、ガバナンス、内部管理態勢、リスク管理態勢が全体として実効的に機能しているか否かを評価

1. 経営戦略・計画の着実な実行/
経営体力等に見合ったリスクテイク

- 地域経済等の実態に適合した実現可能性ある経営戦略・計画
- 計画未達時の原因分析・改善策・着実な実行
- 取締役会等で定めたリスクテイク領域・上限内でのリスクテイク
- 将来収益・リスクを勘案した配当水準の検討・決定、説明責任

2. 経営戦略・計画を着実に
実行できる態勢の構築

- 収益性の総合的評価・分析、組織・店舗・人員配置等の業務効率化
- 商品・サービスの特性・リスク把握、適切な収益管理態勢の構築
- 急激な信用リスク顕在化に対応できる態勢の構築

3. ガバナンスの発揮
(取締役会・内部監査)

- 経営陣の継続的育成・登用
- 相談役・顧問等による不適切な影響力排除
- 取締役会における経営計画・収益計画達成状況への責任明確化
- 社外取締役の役割明確化、確保・評価、評価を踏まえた選解任
- 経営を牽制・規律付ける内部監査の実施、内部監査態勢の構築